

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4272300247		
法人名	有限会社 カワトタイル		
事業所名	グループホーム よこせ	ユニット名	
所在地	長崎県西海市西海町横瀬郷2762番地2		
自己評価作成日	平成 27年 7月 22日	評価結果市町村受理日	平成27年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成27年8月7日	評価確定日	平成27年9月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『グループホーム よこせ』は海と山に生まれた自然あふれるなかに、歴史もある西海の地で地域住民の心温かく見守って頂いている雰囲気の中で、利用者様と職員が手を取り合い、自然と笑顔で笑いあえる環境作りと基本理念に基づき、利用者様中心の家庭的な心あるケアを大切にさせて頂いております。また、地域行事やイベントには積極的に参加し、地域住民の方との交流で生き生きと、さらに自立した生活をされることを目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームよこせ”は開設から10年を迎える。地域の方との地道な信頼関係を築いてきており、ホームの畑に苗を植えて下さったり、野菜やスイカ、魚等の差し入れも多く、昔ながらの「支えあい」の関係が作られている。管理者が地域の敬老会の企画立案から参画しており、ご利用者と一緒に地域行事(町内清掃、運動会、敬老会、夏祭り等)にも積極的に参加している。日々の生活では、ご利用者全員で小魚(キビナ)の下ごしらえをしたり、畑で芋ほりをするなど、地域の暮らしと共に生活することができている。ご利用者は海で育った方も多く、「サザエが食べたい」などの要望も聞かれており、庭でのバーベキュー等も企画する予定である。今後も更なるケアの質の向上を目指しており、「自分にしかできない仕事」「誰にでもできない仕事」を行えるよう、プロ意識を持って仕事ができることを目標に掲げ、日々の取り組みを続けているホームであった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	以前から地域行事への積極的な参加と、地域の方々との交流に力を入れているところですが、今年地域の方々から「待っています、協力をぜひお願いします。」との声があがり、感謝の心で勇んで参加協力しています。	「共に助け合い 共に生きる 出逢えた事の喜びとこれからの一生を大切に」の実践に努めており、ご利用者個々の役割や夢、希望の把握に努めている。介護主任が勉強したバリデーションを職員に伝達し、思いに寄り添い、思いを引き出す取り組みを続けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	継続して参加、協力していく中で地域の一員として自覚が深まっていると痛感しているところ。	「待っていてもダメ。自分から出向かない」と言うケアマネの教えを大切に、地道に地域の方々との協力体制を築いてこられた。地域の方がお芋の苗を植えて下さり、保育園との芋ほりも恒例になっている。小学生が下校時にお茶を飲みに来て、ご利用者との会話を楽しませている。	26年度は“笑いヨガ”を活かした集いを行い、好評であった。今後も更にホームの役割でもある認知症ケアの啓発活動を検討しており、地域の方と一緒に勉強の機会を増やしていく予定である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加していく中で、折に触れ認知症の人への理解を深めています。地区総会の席でホームの説明といつでもご相談受け付けを行っている事をお伝えしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	畑や庭先で地域の方と話す機会が増え、地域行事の折に認知症介護についてお話をしています。又トイレが増設されました。	地域代表の方等と地域連携の在り方や苗の情報交換をしている。内容に応じて、警官や薬剤師、消防団長、保育所園長等も参加して下さり、ご利用者、家族、市役所の職員、認知症サポーターの方等と意見交換し、ホームの取り組みを理解して頂く機会になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者とケアマネが常に連絡を取り合い在籍状況、現況報告を行っています。	日頃から市との連携ができており、処遇改善加算などを相談した時もアドバイスを頂いている。市からの依頼で、ケアマネが認知症リーダー講習を受講したり、キャラバンメイト講師の講義の参加依頼もあり、受講することができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進員育成研修にも参加し、職員会議などでも研修報告とスタッフの見守り気づきをとおり実践中です。	「身体拘束は絶対にしない」という方針であり、感情が不安定な時は原因解決に向けた取り組みを続けている。いつでも帰宅できる」「いつでも外出できる」という安心感を持って頂き、自由に外出できる環境が作られており、近所の方の見守り支援も温かく、感謝の思いを伝えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全員でお世話の状況引き継ぎを話し合い、防止に努めています。又、研修にも参加し職員会議でも確認しあっています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等があれば、参加し職員会議で報告をおこない、制度についての認識を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の想い、ご利用者さまの状態を注視し、慎重に傾聴し、疑問点などがないように説明しています。あれば、後日でも説明を行えることを伝えています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今のところ、家族会の場、スタッフとのご家族との情報交換ができる面会時。その折の要望を大切に反映できるように心がけています。	面会時に家族との担当者会議が行われ、暮らしぶりの報告を行うと共に、行事などの要望等を伺っている。花見の時は家族が車を出して下さり、一緒に花見を楽しまれており、敬老会や忘年会、新年会の時も家族同士の交流が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で良く聞いて、運営しています。	代表等も優しく、明るいお人柄で、職員が意見を言いやすい環境が作られている。日々の生活支援方法や行事等への職員のアイデアは多く、職員間で協力し、楽しみを増やしている。外部研修や介護従事者援助加算金の分配方法等も会議で報告し、全職員の了承の上で運営している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康に留意し、お互いに助け合い、働きやすい職場を目標としており、可能な限り条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には、管理者が陣頭指揮をとり、積極的に参加を呼び掛けています。正社員、パートを問わず。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は西海市福祉施設連絡協議会運営に参画し、異業種との交流を含め外部研修、勉強会、同業者間の交流事業を通じサービスの向上を図っています。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ピアカウンセリングにも注目しながら、同席する利用者も検討してテーブルのグループメンバーを決めています。特に利用日から1週間は綿密にスタッフ間の気づき情報をとり、本人が困っていることについてサービス内容を検討しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族訪問時(あらかじめ月に何日可能か聴く)、電話でこまめに情報を共有し、生活支援を行うようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の意見、ご本人の意見、医師の看護情報を確認したうえで、事業所のサービス等を含め、特別なサービスがあれば可能か等、検討しサービスを開始しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	特に夜勤帯では、眠れない、さびしい表情のご利用者などと、共にリビングで茶話会をして身の上話を傾聴しながら、共にここで生活していくことを人生の縁として理解してもらっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人が、いかにご家族を思っているか、また施設だけではご本人の生きがいをもって暮らせることはできないこと。ご家族と施設側が共に手を取り合って支えていく事が重要なこととお話させて頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	暮らしの中、マスコミの情報、地域行事の情報に関し、ご利用者に関する事柄があれば、ご利用者と共に多様な形で関わるようにしています。	馴染みの関係を大切にしており、近所の方も来て下さっている。地域行事や馴染みの商店、病院等に外出し、地域の方と会話をしたり、家族とお墓参りや外出(外食)を楽しまれている。職員も一緒に自宅訪問したり、生まれ育った地域の方との交流の場にお連れしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同志で助け合う事が施設では常に見られます。また、気の合わない方もいます。常に双方にとって楽しく暮らせる空間づくり、環境に気配りしています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	非該当になり、在宅で生活されている方に関しては、ご本人の意思を尊重しつつ生活の様子を見守らせて頂いております。また、職員が入院した際には、子供と一緒に見舞いに病院に来られたこともあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	率直にご本人の希望を傾聴しその実現に向けご本人と日々話しているところです。	センター方式等を活用している。団欒時や夜間等に、ご本人の思いに寄り添っている。「お参りたい」「散歩がしたい」「畑がしたい」等の要望も聞かれ、計画に反映している。長期的に取り組む必要がある事や、家族の理解や協力を頂く内容もあり、個別に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネの、ご利用者様の元気なころの生活様子等聞き取り、スタッフの生活記録、現状での満足度について、などを参考にして多少でもご本人の生活感向上に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、夜勤者、日勤者の気づきを連絡引き継ぎノートに記録し全スタッフがケアの継続を行い利用者様の個別能力の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	専門家会議へのご本人、ご家族の参加を交え話し合う機会をこれまで以上に利用したいと考えています。	家族や主治医の意見も頂き、全職員で介護計画の作成に取り組んでいる。ご本人のセルフも介護計画に盛り込み、生活歴や要望を大切にしている。生活日誌には個々の計画内容を印字し、日々確認が行われている。	バリデーションも活用し、ご利用者個々の思いや要望を引き出す取り組みを続けている。個別の願いを叶えるためにも、今後は更に「短期目標」を具体化し、日々のリハビリ内容も盛り込んでいく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、引き継ぎノート、月一回の会議で気づき、ケアの具体事例を話し合い、必要であれば作成担当者がプランの見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所当初、アセスにとられなかった帰宅願望、発現できていない下肢の痛み、感情失禁についての対応、医療自己負担上限額管理利用に関しご家族の代わりに申請書類提出。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例として、利用者様の従妹にあたる身障者の竹細作品展示会に出向き、その作品に触れることでご本人の暮らしの意欲を強化。「こげん、立派な作品ば両足がかなわんとに、ようつくった。偉かアー。」ちなみに、作品は内閣総理大臣賞。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常に、ご本人の状態を見守りつつ情報を共有できるように気がかけています。	希望する医療機関に受診されている。症状の変化や内服に関する相談等を含め、医師との情報交換ができており、認知症等の確定診断もして頂いている。職員の観察力も高まり、病院の看護師にも相談できている。受診時は主に職員が同行し、家族との情報共有もできている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護職はいません。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームの運営方針等を説明しながら退院に向け対応をご家族、ご本人が不安にならない様に対応をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	以前は事例がありましたが、今回はありません。	看護師が勤務しておらず、重度化した場合の支援は原則できない状況にある事を入居時に説明している。体調の変化に応じて、主治医と家族も一緒に繰り返しの話し合いが行われ、最大限、ホームでの生活が継続できるように努めている。ご利用者や家族の意向も確認し、26年春に終末期ケアが行われた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを常備し初期対応をおこない、AEDの取り扱い研修も予定しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害の訓練に関しては、市、地域との連携協力体制が整わない事には、難しく、今現在訓練や災害計画も整っていない状況なので、今後の課題となっています。	スプリンクラーを設置し、毎日の防災チェックを続けている。毎年11月9日(防災の日)に消防団や地域の方と夜間(19時)の訓練をしており、訓練結果を踏まえて様々な意見を頂き、夜間照明等を増やしたり、避難時に車いすに対応できるスロープ等が設置された。災害に備え、水や缶詰等の備蓄を行い、停電時の補助電源も準備している。	地域の総会では、地域自主防災組織の一員として入れて頂き、災害時の避難受け入れができる体制を整えている。今後も西海市と連携し、ハザードマップを基に自然災害を想定した防災計画等を作成すると共に、地域の施設同士の連携の在り方も検討していく予定である。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所している理由は各人違います。価値観も、生き方も違う事を肝に銘じ、その方の事を生活の関わりの中で情報を得ながら個々の援助に活かすようにしています。	ご利用者の尊厳を大切に、ご本人の立場でケアが行われている。言葉遣いに注意し、子ども扱いたい言葉を使わないよう指導している。“トイレは神聖な場所”と言う事を共有し、羞恥心への配慮も続けており、個人情報の管理にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	主任はバリテーション等の学びえたものを介護スタッフに伝えそのことが援助に活かされています。各人各様価値観は違いますが自由闊達に要望をされ、ご利用者様の希望を叶える努力が支援に生かされています。声かけは疑問形で行う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所内行事、外部行事などへの催事毎に参加の呼びかけを行い、利用者様の参加の意思を確認して身体能力が乏しい方、各ご利用者にとって適正と思われる援助を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	たまには、紅をさしたり、髪型を整えたりする援助を行います。誕生会を迎えたり、外出したりする際笑顔が見られます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	予め、入所時食の好みを聞き取りしています。また食事に工夫して提供させて頂いています。食後は下膳、テーブル拭きができる人は自主的にスタッフに協力されています。特に指示はしていません。	チラシを見ながら、ご利用者と買い物に行かれています。管理栄養士や職員がバランスに配慮した料理を作り、糖尿病等の数値が改善した方もおられる。ご利用者も“ごぼうそぎ”やツツの皮むき、餃子包み、餅丸め等をして下さり、ホームの畑で収穫したお芋も好評で、芋料理も作られている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その都度、その時々の方の水分量、食事量、オヤツの摂る量を見守りながらも、特に水分量は留意して適量の確保に努力しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎回その人の状態により、各様の援助に心がけ口腔ケアを行っています。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	
				次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間、昼間の排泄パターンを共有し誘導、あるいは見守りをおこない、失禁を未然に予防できるための努力をおこなっています。又ある利用者様はリハビリパンツから布パンツになり、自立されています。	トイレが増えた事で、スムーズなトイレの使用ができています。排泄チェック表をつけ、排泄感覚やご利用者のしぐさを察知し、個別のトイレ誘導を行っている。下着を着用し、排泄が自立している方もおられ、パッドの使用などの検討も職員同士で続けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医との連携、及び介護側からの相談を含め便秘薬の服薬方法の指示を受けています。個々の排便記録を行っています。さらに服薬とは別に食事摂取によっても予防を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望を基に、実施しています。	入浴時間や順番などの意向を大切に、日曜以外は希望に応じて入浴できる体制を整えている。お風呂好きな方が多く、菖蒲湯やゆず湯、バラ湯なども生まれ、入浴時は歌も聞かれている。できる範囲はご自分で洗って頂いたり、同性介助も行われ、羞恥心の配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各人がくつろげる場所を日常生活の中でスタッフは把握し、寛ぎやすい環境を整備。また夕方食後、不安、不眠が見える人は、スタッフと共に眠れるまでリビングでお茶したり、世間話をしたりして安眠できるように援助を気にかけています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人、ご家族の希望、医師、薬局の薬剤師への相談の上、スタッフが症状の変化の確認、安定に努めています。今年から、前臨床検査技師の総務担当にも相談できる体制になりました。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	地域資源、懐かしい人環境、その方の能力、楽しみごと、気分転換、生活上の役割と折にふれ活用しご本人の生活を楽しいものにと援助を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ある人は、常に戸外へ出ようとされる。その場合は職員の業務で外出する際、同行してもらおうなどしています。またご家族へも協力をお願いしています。	季節の花見や大島大橋公園などのドライブと共に、ジャスコでの買い物も楽しまれている。商店の特売日には、ご利用者も一緒に砂糖や味噌等の買物に行かれたり、「パチンコに行きたい」と言う事で、数名の方がパチンコを体験する事もできた。地域のお祭りも楽しまれている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	被害妄想、他人への不信感などの発生を防ぐため、事務所で預かり、職員はその重要性を理解しており、必要な時は持ち出し買い物支援を行っています。不足している時はご家族に相談しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは、していません。がスタッフが電話をかける援助を行い、ご家族と通話されています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心してできる排泄行為、ちょっとした快適に休憩できる空間づくりを勧めています。玄関ソファが一番人気なので、ソファを2台増やし、トイレ待ちが見られていましたが、トイレも増設しました。	玄関の椅子がお気に入りの方が多く、リビングのソファを玄関に移動した。来訪者を笑顔で出迎えて下さり、会話も弾んでいる。ご利用者も朝からモップ拭きをして下さり、掃除が行き届いており、ドライブや買い物などの生活風景の写真を廊下に貼り、会話のきっかけになっている。リビングや廊下を利用し、体操やリハビリを増やしていく予定である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外庭より長椅子を玄関脇に移動しました。そのことにより、少しの雨天でも一人で外に出て過ごせる居場所ができています。テレビ前のソファ、テラスへ長椅子を置くなど工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の居室は生活自立場面に応じ、環境整備されています。	タンスやテレビと共に、大切な仏壇や家族の写真も置かれており、朝からお仏飯を供えている。ご自分で家具のレイアウトをしたり、毛糸で人形の洋服などを編まれる方もおられ、過ごしやすい居室になっている。愛猫のトイレの砂(排泄物)も適宜交換し、換気もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活動作での各人の能力に応じた暮らしができるよう自立のための居室環境、手伝いがすぐできる工夫がなされています。		